



NO.24-28 2024年10月20日

<テーマ> 違いの中にキリストを告白する群れ

～ 響き合う礼拝とひろば ～

<年間テーマ> 主に望みをおき、出会い結び合わされて

<聖句>

イザヤ書 40:28～31

～主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張って上る。
走っても弱ることなく、歩いても疲れない。

エフェソの信徒への手紙 4:16

キリストにより、体全体は、あらゆる節々が補い合うことによってしっかり
組み合わされ、結び合わされて、おのおの部分は分に応じて働いて体を成
長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。

「主イエスに伴われて耐え忍ぶ」

主イエスがエルサレムの神殿で宗教指導者たちと問答をした後、神殿を出る際に弟子たちはその荘厳さに驚嘆します。しかしイエスはその神殿は崩されると言いました。弟子たちはそれはいつか、どんな徴があるのか、と尋ねました。主イエスは、戦争や国々の対立、地震や飢饉が起こるが、人に惑わされないように気を付けなさい、と言います。気を付けるは警戒せよとも訳せます。続いて弟子たちへの迫害への言及の後に「まず福音が宣べ伝えられなければならない」と語られます。「ならない」は「必然」を表し、神が未来に対して示している事柄の場合に用いられる表現です。マルコの福音書は紀元後 70 年頃、ローマ帝国によってエルサレムが陥落し神殿も壊滅した後に書かれたと言われます。マルコの共同体もまたイエスを伝え生きた結果の迫害に遭い、状況としても「世の終わり」の中にいたかもしれません。主イエスは、目に見える混沌をそのしるしとする語りや人々に警戒すること、むしろ悲惨な状況の中においても神の関わりを見失わないようにと語りました。聖霊が主イエスを信頼する者達に伴い言葉を与えること、神は福音を伝え生きる人々を支え続けることを。弟子たちは福音を伝え生きたからゆえに迫害されました。耐え忍ぶ、とはうずくまって過ぎ去るのを待つというより、自分も福音に生かされ、福音を共に受けませんかと呼びかけ、この世界の中で神の愛と義を求め受けて、終わりの時まで精一杯生き抜くことではないでしょうか。【井形英絵】

日本バプテスト連盟

神戸バプテスト教会

牧師 井形 英絵

主日礼拝

毎日曜日 午前 10:30～11:45

共育のひろば

第1・2日曜日 午前 11:45～12:40(成人クラスA・B・C)

第2・3・4日曜日 午前 11:45～12:40 (小学生クラス)

幼稚園C・S

日曜日 午前 9:00～10:20(10月20日、27日)

ひまわりひろば

日曜日 午前 9:00～10:20(10月20日、27日)

祈禱会

毎水曜日 午後 19:00～20:15

教会についてのお問い合わせ、バプテスマの希望や他教会からの転入、またご相談のある方は
牧師、又は教会事務局までご連絡ください。

〒650-0003 神戸市中央区山本通 1-7-27 TEL078-231-7187 FAX078-221-5252

ホームページ: kobe-church.com 事務局Eメール: jimukyoku@kobe-church.com



祈りの課題

- 1、神戸バプテスト教会 2024 年度福音宣教と諸計画諸活動のために。10/27 特別伝道集会を覚えて。
- 2、2学期が始まった光の丘幼稚園園児・保護者・教職員のために。新園児の募集を覚えて。
- 3、井形英絵牧師の働きと健康が守られますように。
- 4、能登半島豪雨・地震、宮崎地震、山形大雨災害、世界各地で被災された方々、支援にあたっておられる方々のために
- 5、イスラエル、パレスチナ、スーダン、ミャンマー、アフガニスタン、ウクライナとロシアなど紛争と戦争の只中にある方々の命が守られますように。すべての人々のいのちが尊重される自由と平和が実現しますように
- 6、台湾地震、モロッコ、リビアの災害、トルコ・シリア大地震で被災された方々の命と日々の生活が守られますように。
- 7、子どもたちの心と体の成長が守られますように。
- 8、病の中にある方、療養中の方、その方々を支えておられるご家族のために。
- 9、困難の中にいる方々と共に生きるすべてのキリスト教会と信徒の信仰生活の守りのために。
- 10、新会堂建築計画の導き。会堂建築委員会の働きのために。
- 11、これからの神戸教会のために。教会員が共に語り合い、主の御心を求めることができますように。

【連盟・連合・他教会の祈り】

◆日本バプテスト連盟の全国 316の教会・伝道所のために。特に連盟の機構改革と新しい体制での働きのために。第70回定期総会（2025年2月）と準備のために。

◆関西地方教会連合の36教会のために。2024年度の連合の働きのために。

交読 一コリント13:1〜13 「愛の賛歌」

たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、

愛がなければ、わたしは騒がしいドラ、やかましいシンバル。

たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、

たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、

愛がなければ、無に等しい。

全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、

誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、

愛がなければ、わたしに何の益もない。

愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。

愛は自慢せず、高ぶらない。

礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

不義を喜ばず、真実を喜ぶ。

すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

愛は決して滅びない。

預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう、

わたしたちの知識は一部分、預言も一部分だから。

完全なものが来たときには、部分的なものは廃れよう。

幼子だったとき、わたしは幼子のように話し、

幼子のように思い、幼子のように考えていた。

成人した今、幼子のことを棄てた。

わたしたちは、今は鏡におぼろに映つたものを見ている。

だがそのときには、顔を顔とを合わせて見ることになる。

わたしは、今は一部しか知らなくとも、

そのときには、はっきり知られているようにはっきり知ることになる。

それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。

（一同）その中で最も大いなるものは、愛である。